

校長室だより 春日 (しゅんじつ)

校長 清武 直人

赤ちゃんの時

「スマイレの花のようにみんなに親しまれる子になってね。」
 「夢に向かって大きく羽ばたく子になりま
 すように。」
 「たくさんの人に愛される子になってね。」

2年生の教室で見つけました。子どもたちが自分が赤ちゃんの頃のお話を家族に聞いてまとめた作文です。

その中には、自分の名前の由来や自分が生まれた時の家族の喜びが記されていました。

「ねえねえ、お母さん。どうして私の名前を“すみれ”っていう名前にしたの？」
 「ねえねえ、お父さん……」

親子の微笑ましい会話が聞こえてきそうです。子どもたちが書いた作文を読みながら、私もずっと昔に親から聞いた、自分が赤ちゃんだった時の話を思い出しました。

私が赤ちゃんの時

昭和30年、春日市の千歳町で生まれました。早産で、8ヶ月で母のお腹から出てきたそうです。せっちな性格は、すでにこのときから見え始めていたようです。

2ヶ月も早くこの世に出てきた私は、体が弱く、口にもものを入れるとすぐにお腹をくだし、医者に食事制限をされていたそうです。ですから体はみるみる痩せていき、両親はこのまま死ぬのを待つしかないのかと思ったそうです。

そんな時、祖母が「どうせ死ぬなら食いたいものを腹一杯食わせてやれ」と言ったその一言で、とにかく食べさせることにしたそうです。

それからは、食べてはくだし、食べてはくだしの繰り返しだったそうですが、それでも食べたおかげで体力がつき、命を取り戻したということです。祖母は、私の命の恩人のようなものです。

名前は、「素直な人になれ」という願いを込めて「直人」と付けたそうです。

親の期待通りに育たず、申し訳なく思っています。



心配事の9割は起こらない

本屋さんに行って本のタイトルを眺めるだけでも結構ためになります。今回目にとまったのはこれです。

「心配事の9割は起こらない」

なるほどと唸ってしまいました。なんと心を楽にする言葉でしょう。

滅多にないことですが、夜奥さんがお友達とお出かけして少し帰りが遅くなると、「何かあったに違いない」「交通事故にでも遭ってなければいいが……」
 思いは悪い方へ悪い方へと向かっていきます。
 「きっと楽しくて盛り上がっているんだろうなあ」「幸せなやつだなあ」なんて絶対に思わないのが人間の心です。

そんな時「心配事の9割は起こらない」という言葉を掴んでさえいれば、奥さんの帰りがいくら遅くても安らかに床につくことができるのです。

「でも、1割は起こるんでしょう。」
 なんて絶対に思わないことです(ToT)

ダイジョウブ!!!
 ダイジョウブ!!!



